

院内集会と力合わせの集会で意志固め 何が何でも政治の流れを変えよう

統一地方選と参議院選挙で全ての推薦候補の当選へ

退職者連合は2月13・14日にわたって都内で「高齢者が安心して暮らしていくためには何としても政治の流れを変え、安倍首相を退陣に追い込もう」と力合わせの集会を開いた。13日は「ルポール麹町」で「政治を変える2・13力合わせの集いを開催、14日には参議院会館で、通常国会政策制度要求実現2・14院内集会を開催し、4月の統一地方選挙と7月の参議院選挙に臨む意思を固めた。

14日の政策制度要求実現2・14院内集会にはJAMシニアから本部・東京・千葉・埼玉・神奈川シニアの仲間9名が参加。会場は産別や関係する退職者組織と地方退職者連合、関東ブロックなどから300人を超える参加者で熱気に包まれていた。

冒頭、主催者を代表して退職者連合人見会長は「高齢者が安心して暮らしていくためには給付の切り下げや負担増など社会保障制度をこれ以上後退させてはならない。何としても参議院選挙に勝って政治の流れを変え、安倍首相を退陣に追い込まなければならない」と激を飛ばし、来賓席に揃った野党3党の代表者に対して「そのためには野党が大きなかたまりになることが重要だ」と明言。選挙区で共に闘うべき候補が未だ決まっていない野党共闘の状況に「カツ！」を入れ、野党の大同団結を強く求めた。そのうえで「持続可能な社会保障制度をつくっていくための10項目の春要求を前進させるよう退職者連合の力を発揮していこう」と参加者に訴えた。

また連合の南部美智代副事務局長は報道されている毎勤統計不正問題の国会審議にふれ「今世紀に入り最高の賃上げとなり着実に改善している」とする連合総括を引用した安倍首相の国会答弁に対し「連合集計は労使交渉の結果のもので組織率からみて全体ではない。全体の底上げや波及に繋がっていない」と指摘した。これを受けて立憲の枝野代表、国民の玉木代表、社民の吉川幹事長は、各々の立場から国会での安倍首相の答弁と態度の酷さを指摘、「有権者の大きなうねりが力となる。政治決戦の年に退職者連合の皆さんの力を貸していただきたい」と挨拶した。

2019年度政府予算案と国会提出法案に対する社会保障関係のポイントと連合の考え方について連合伊藤生活局長が解説。その後政党への要請行動を含めた今後の取り組み方針を満場の拍手で承認「統一地方選挙と夏の参議院選挙を退職者連合の総力をあげて勝ち抜こう」との集会アピールを採択し散会した。

2月13日、ホテル・ルポール麹町で午後6時から「政治を変える！2・13力合わせの集い」が開かれた。

この集いには退職者連合加盟産別と関連する組織の事務局長、地方退職者連合連事務局長、役員など80人が参加。統一地方選と参議院選での退職者連合と連合が推薦する候補者全員の当選に向けて奮闘することを誓い合った。

集いでは比例区候補予定者の決意表明が行われ、忙しい候補予定者本人に代わって各代理の者が支援を呼びかけ、退職者連合9ブロックの事務局長が地域における取り組みについて決意を述べた。JAMからは古田政策実現室副室長が田中ひさや候補予定者のポスターを手に力強い決意表明で会場からの大きな拍手を受けた。